



2024(R6)年度

認定特定非営利活動法人コミュニティリーダー ひゅーる ぽん

## 事 業 報 告 書

(令和6年4月1日から令和7年3月31日まで)

## 1.運営に関する事業

### 総財務セクション

働きやすい職場環境づくりに取り組みました。社会保険労務士の方に助言をいただきながら、現在の労働環境や規程類の見直しを進めてきました。また、会員獲得のためのチラシを新たに作成し、事業内容が伝わりやすくする工夫を行いました。しかし、やらなければならない業務が多く多岐にわたるため、新しい提案や変革に繋げることは不十分でした。財政面では、自由度の高い活動を行なっていくために、理念や想いを伝え会員・寄付者を増やすことを毎年目指していますが、十分に取り組めていない実情がありました。

### 寄付金・助成金報告

#### 【収入】

2024年度中に皆さまから頂いた会費やご寄付の総額は約238万円でした。

#### 会費・寄付金・助成金内訳

正会員 22名（内、個人 23、企業・法人等 0）

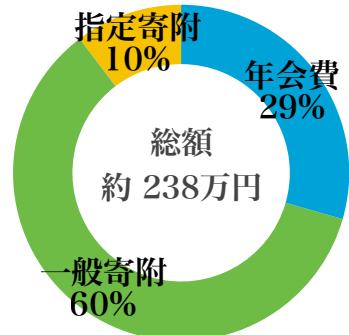
賛助会員 97名（内、個人 93、企業・団体等 4）

寄付金 一般寄付 約143万円、指定寄付 約24万円

#### その他助成金等

・広島市心身障害者福祉基金（尾崎基金） 37,500円

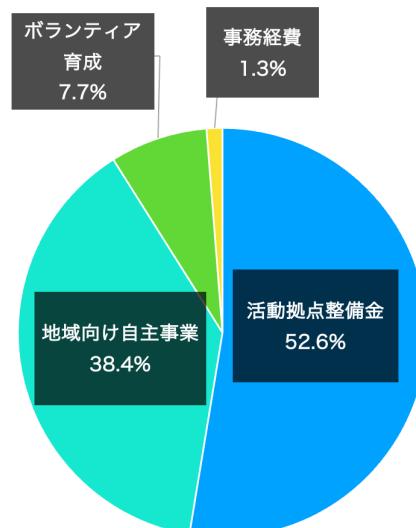
・イオンイエローレシート 25,300円



#### 【支出】

会費やご寄付の財源の使途の内訳は左記のグラフの通りです。

活動拠点整備金は、備品購入や施設整備等、活動を充実させるために、地域向け自主事業は、地域食堂や夏まつりなど地域に向けたプログラムの実施経費として、ボランティア育成は、学生ボランティアの活動経費補助として活用させていただきました。



## 研修セクション

研修セクションでは、NPOスタッフとして広い視野を持ち、自分たちの力を地域に発揮していけるスタッフを育てることを目指して、さまざまな研修に取り組みました。

スタッフ研修ではスタッフの「こんなことを学びたい」という意見を取り入れながら、地域共生社会に向けたまちづくりの実践的な取り組みや、地域で大きな災害が起こった時の対応事例など、NPOスタッフとして、また子どもたちや通所者に関わるスタッフとして視野の広がる研修を実施しました。

ひゅーるぽんで力を入れて取り組んでいる社会力研修では、今年度は幼児期と学童・成人期のグループに分かれ、非認知能力の項目について検討を行い、理解と共通認識を深めることができました。

専門性の向上に関して、経験の浅いスタッフが日々のかかわりで悩む場面もありました。適宜アドバイスの機会を設けること、それを全体共有しディスカッションする機会の持ちにくさがあることに課題を感じています。

### 重点的に取り組んだ事業

#### 社会力研修

##### 全8回

1 従来よりある「社会力チェックシート」を、対象者の年代ごとに改定し、よりアセスメントに活かせるツールとすることを目指して取り組みました。活動や個別支援計画に活かせるよう、今年度はひよこ組・相談チーム、きつず・ぽんぽんのグループに分かれ、非認知能力について一項目ずつ具体例を挙げながら整理・共有しました。

#### 広報紙「うるとらのほし」の発行

##### ・うるとらのほし195号 (6/20発行)

トピックス「保護者交流会」

特集「地域共生社会とわたしたち①」

##### ・うるとらのほし196号 (12/20発行)

トピックス「夏まつりとその他地域行事」

特集「地域共生社会とわたしたち②」

私たちの日々の取り組みや、活動に込める想いを広報誌で発信しました。担当チームで考察し記事を作成する体制をとったことで、以前よりも幅広い意見を取り入れることができました。

## その他の研修

### 公開研修

- ・「就学を考える」(6/7) 講師：広島市教育委員会特別支援教育課指導主事 高橋望様  
参加者9名
- ・「就学を考える2」(8/20) 講師：就学児保護者3名、ひゅーるぽんスタッフ参加者7名
- ・「子どもの食事とおやつ」(10/1)  
講師：安佐南保健センター 伊藤夕賀子管理栄養士 岩政保健師 参加者7名

### 内部研修

(1)新任研修(5～6月に5回) 健康管理・法人プログラム・会計・ビジネスマナー など

(2)スタッフ研修

3

- ・「感染BCP・食中毒について」(6/15) ・「災害BCPについて」(6/22)
  - ・「人権・虐待防止について」(10/5) 講師：広島市市民局人権啓発課 新田 千佳子様
  - ・「まちづくり 江波地区の地域食堂の取り組みについて」(11/30)  
講師：悠々タウン江波 渡辺久美子様
  - ・「防災について」(11/30)
- (3)みにみに勉強会
- ・新任対象(5/28)・5領域や遊びについて(5/27、8/5、19、31)
  - ・給付費の仕組みについて(9/21)

### 外部研修

- ・「療育について考える研修」 ・「ミュージアム・アクセシビリティ講座」
- ・「心の傷と依存症講座」 ・「意思決定支援研修」 ・「NPOセンター防災士研修」  
など 18件受講

## 2.コミュニティスペースプログラム

### 1 こども発達支援センター

#### (1)児童発達支援事業 ひよこ組

「安心感を基盤とした交流感・有能感・自己決定感の醸成」を基盤として、児童発達支援ガイドラインに基づき、生活や遊びの支援を行うことを通して、基本的生活習慣の獲得や自立、人・集団に対しての愛着心を育むこと、毎日をいきいきと過ごしていくための支援を行いました。

今年度は、制度・ガイドライン変更への対応として、個別支援計画様式の見直しを行いました。また、年々、就労されている保護者の方が増えているという現状を受けて、自主事業として取り組んでいた延長預かり事業（ちっち）の定員拡大に取り組みました。また、参観や親子参加行事、保護者向けプログラム等を通して、ひよこ組の取り組みを知っていただく機会を作りました。また、個別に家庭での生活力向上につながる関わり方を知る機会を作りました。

#### 重点的に取り組んだ事業

延長預かり事業（ちっち）の利用目的の見直しと定員拡大  
給付費の制度利用による、保護者負担の軽減

##### 実施方法

法人の通所事業を利用されている保護者・家族に、有償サポーターとして運営に協力していただき、日々の延長受け入れ枠を4名から7名に増やました。また、就労を理由とした延長預かりにも対応することにしました。

##### 成果・評価

- ・定員を7名まで拡大することで、就労をされている方も、レスパイト等の理由の方もどちらも利用ができるようになりました。延長利用の数が、月平均で約2倍になりました。
- ・他拠点の保護者・ご家族がサポーターとして協力してくださることで、法人全体で子どもたちの成長を支え合いながら事業を運営するきっかけになりました。

##### 1 課題

- ・定員は増えましたが、日によっては利用が集中することがあり、すべての要望を受けることができない日がありました。利用希望と受け入れ可能な体制とのバランスをとの難しさを感じました。
- ・サポーターの確保が難しい日は、スタッフが複数で対応せざる得ないことがあり、業務が増加してしまう日がありました。

##### 次年度に向けて：

就労を理由に延長預かりを希望される方が増えていくことが予想されます。保護者の方のリフレッシュや兄弟児の行事等の家庭支援と、就労をされている方の支援両方が、必要な時に利用できるような体制を作っていく必要があります。サポーターとして協力していただける方を増やすことや、子どもたちの状況を知っていただき個々に対応できるような工夫をしていきたいと思います。

勉強会や給食試食会、行事、参観など、保護者の方にも活動参加いただく機会や実際の関わりを見ていただく機会をつくり、家庭での取り組みにもつなげるようにしました。

#### 実施方法

親子行事の実施。

保護者向け勉強会（食育、健康・保健）。年長児親子クッキングの実施。

法人全体行事での、保護者参加の機会を作りました。

#### 成果・評価：

- 2 · 子どもたちが頑張る姿を見ていただくを通して、成長をみなさんでともに喜ぶ機会になりました。また、家での様子と違う一面を見ていただき、家庭での取り組みにつなげることができました。
- 保護者の方が集まる機会を通して、保護者同士がつながるきっかけになりました。
- 個別に、家庭での生活力の向上や遊びにつながる関わり方を知る機会を作りました。
- 保護者の方とスタッフが顔を合わせる機会や、保護者の方が子どもたちの様子を実際に見て知る機会があることで、家庭での困りごとを知る機会にもなり、より具体的な関わりや家庭での取り組み方などのアドバイスができました。

#### 次年度に向けて：

参観や親子行事などの機会を増やし、保護者の方とともに子どもたちの成長をより支援できようになります。また、個々の状況に合わせた、家庭での生活力向上につながる親子プログラムなどの実施を検討していきます。

## (2) 放課後等デイサービス きっず組

きっず組では、子ども主義を大切に本人に寄り添いながらそれぞれの成長を促すこと、子ども自身が主体性を持ち自分たちの活動を作る・参加することを目標に活動してきました。子どもたちが活動の立案、企画をしてマツダスタジアムツアーや園庭キャンプなどの行事をすることことができました。

障がいのあるなしに関わらず、子どもたちがいきいきと育ち合う場にする目的に、わくわくきっずという地域交流の時間を設けています。月の初めにミーティングをし、活動を子どもたち自身で決めるなどを心がけてきました。週によりますが、毎回10名程度、地域の子どもたちも参加してくれるようになってきています。

今年度、さまざまなものに取り組みましたが、子どもたち同士で遊び合えること、子どもたち同士で解決すること、最後までやり抜くことなどに力の弱さを感じることがありました。子どもたちの意見を聞きつつ、時にはスタッフが仲介しながら子どもたち同士でのつながりをさらに深めていきたいと思います。

## 重点的に取り組んだ事業

わくわくきつず

### 内容

毎週木曜日16:00～17:20（長期休暇は日時が異なる）

きつず組の通所児、きょうだい児、地域の子どもたちを対象に、地域交流の時間を設けています。

### 実績・評価

1

各週でばらつきはあるものの、今年は10名程度地域の子どもたちが毎回参加してくれるようになり、地域での認識も広まっていっている実感があります。また、今年度は月の初めに子どもたち同士でミーティングをし、活動の内容を決めていきました。園庭あそびだけでなく、クッキングやハロウィンパーティー、工作などの意見が上がり、最大で18名参加があった回もありました。

一方で、騒がしさや大きな集団の活動になるため、きつず組の通所者の中には、抵抗感がある子どもも出てきています。活動環境や内容に配慮し、安全に楽しくつながりあえる場になるような工夫が必要だと感じています。

## オープンスペース

### 内容

月・火・木曜日10:00～13:00

主に学校へ行きづらい子どもを対象に、放課後等デイサービスの開始前に時間を設けています。

2 評価

一人一人の目標は異なりますが、継続的な通所を通して生活リズムを整えることや、友だち同士の関係が支えとなり継続的な通所につながること、場や友だちに安心感を抱き放課後の活動の集団の中で徐々に力を発揮できる場面もありました。また、今年度は、自分たちでやりたいことを発信し、野菜の栽培や平和学習の時間、外出行事も取り入れました。

### (3)相談支援事業

広島市障害児療育等支援事業=障害者総合支援法に規定する事業  
障害児相談支援事業 =児童福祉法に規定する障害児地域支援事業  
障害児指定特定相談支援事業 =障害者総合支援法に規定する事業  
保育所等訪問支援事業 =児童福祉法に規定する障害児通所支援事業

初期支援では、家族からの相談に対して必要であれば、関係機関や行政とも連携していきながら相談や支援を実施しました。また近隣の小児科への情報提供、地域の行事に参加した際に啓発を行う等、地域に向けて「相談できる場」としての発信もできたと感じます。

毎週開催した子育てサロンでは、回数を重ねるごとに保護者同士のつながりや会話が増え、みんなで子ども達を見守る雰囲気を作ることができました。

#### 重点的に取り組んだ事業

子育てサロンでは、近所の子もいっしょに遊べる場を提供しました。

##### 内容

- ・子育てサロンを年間41回開催し、のべ168人が参加しました。近所からのんびり歩いてこられる親子もいるなど、近隣への広報が少しずつ浸透。親同士で子育ての情報交換や雑談なども一緒にし合えるなど和やかな雰囲気がありました。
- ・在宅の子どもたちへの文化の提供 6月18日 シアターサマンサさん  
11月5日 音楽遊び おとのわさん
- ・子育て研修 10月1日「こどもとおやつ」 安佐南区地域ささえあい課  
伊藤夕賀子管理栄養士

##### 実績（2月末現在）

電話・メール相談 107件

個別相談 80件

集団（子育てサロン） 168件 開催件数 41回

施設支援 8件

保育所等訪問支援 43件

相談 計画作成 57件 モニタリング 109件

障害児相談支援事業では、子どものサービス調整だけでなく、兄弟児含め家族全体の支援、関係者との連携強化を図りました。

2

障害児相談支援事業においては、年間通して17件の担当者会議を行い、関係性が構築され風通しのよい情報共有を行うことができました。

#### (4) こども発達支援センター 自主事業

##### 重点的に取り組んだ事業

- ・児童発達支援ひよこ組の家族支援事業「ちっち」
- ・子育てサロン
- ・公開研修

##### 内容

- ・児童発達支援ひよこ組の家族支援事業「ちっち」の拡大  
(児童発達支援ひよこ組の項参照)
- ・子育てサロンの実施  
1 (相談支援事業の項を参照)
- ・安佐南区自立支援協議会 各部会への参加
  - こども部会 5回
  - 相談部会 4回
  - 事業所連絡会 3回
- ・公開研修の実施  
(研修セクションの項を参照)

## 2 就労継続支援B型 コミュニティほっとスペースぽんぽん

今年度は、より多くの方々に気軽に立ち寄ってもらえる場所を目指して、カフェの運営、ギャラリーでの企画展の実施、ワークショップの実施などを行ってきました。しかし、計画的に実施できず、日々の活動に追われてしまい、中途半端になっている現状があります。通所されている方々が生み出すアートやオリジナル製品を、少しでも多くの方々に見に来ていただけるように今後も工夫しながら活動していきたいと思います。

##### 重点的に取り組んだ事業

##### 人が集まる拠点づくり

##### 実施内容

- ・カフェの再開
- ・ギャラリーでの企画展の実施
- ・ワークショップの開催

##### 実績・評価

1 広報は、インスタグラムなどのSNSを利用しこまめに発信すること、ひゅーるぽん主催の「みんなおいでや」「夏まつり」などの法人行事でもお知らせをすることに取り組みました。その結果、行事や企画展開催時に来られる方もいましたが、決して多いとは言えず、日々数人しか来られない状況が続きました。たくさんの方に足を運んでいただくための工夫や取り組みをしっかり練ることができずにいます。次年度以降、通所される方が生み出すアートや魅力的な製品を強みにして、たくさんの人々に集っていただける空間づくりを行っていきたいと思います。

	<p>自立に向けた取り組み</p>
2	<p><b>実施内容</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭でも自分で料理できるようクッキングの実施。</li> <li>・ぽんぽんでの日常の買い出しやレクレーションでの買い物をなるべく一人でするような促し。</li> <li>・日常生活を通して、自分で考えて行動する場面を増やす。</li> </ul> <p><b>実績・評価</b></p> <p>以前に比べると、少しずつスタッフに頼ることなく自分で考えて行動されようとする方が増えてきているように感じています。また、クッキングで作った料理を家庭でも挑戦する方もおり、自分で取り組む意欲の高まりを感じています。休日のヘルパーやショートステイの利用を通して、さまざまな場面で力が発揮できるように取り組んでいきます。</p>
3	<p>アートの外部との協働事業</p> <p><b>実施内容</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ローソンさんとのコラボ事業でティッシュBOXの販売</li> <li>・韓国”ハニヤン大学”での共同展示及び交流</li> <li>・はつかいち美術ギャラリーでの共同展示</li> <li>・winwinマルシェでの作品展示</li> <li>・ウッドワン美術館にて共同展示 など</li> </ul> <p><b>実績・評価</b></p> <p>今年も、多くの方や団体、企業からお声をかけていただき、展示や交流などをさせていただきました。ぽんぽんのアーティストのデザインをあしらったティッシュBOXを全国のローソンさんにて販売していただくことになったり、韓国での展示や現地で交流をさせていただいたりなど、ぽんぽんの通所者にとっても日々の活動への意欲の高まりや自信につながったように感じています。</p>

### 3.まちづくり・コミュニティボランティア育成プログラム

#### 1 アートによるまちづくり

障がいのある人の表現としてのアートを大切にし、その多様性に寄り添いながら、創作環境を整え高めていくこと、彼らの様々な表現を社会に伝えていくことで、アートを通して人が出会い、共に生きていけるまちづくりを目指しました。

「広島市ピースアートプログラム アート・ルネッサンス2024」では、会場以外の場所での作品展示や、トークイベントを開催する機会をいただき、より身近にアートに触れたり、その魅力や感じ方について深く掘り下げたりできる機会となりました。一方で、展覧会を例年通り開催することに追われ、明確な目的やコンセプトを持ち発信していくことには課題が残りました。

令和6年度広島県文化芸術活動支援事業「広島県アートサポートセンター」では、障がいのある方が自己表現し、社会とつながることを求められている中で、支援や活動の場が不足していることを痛感しています。SNSやYouTubeの普及により、情報収集や発信の可能性は広がっていますが、本人や支援者が十分に活動できる状況ではないことも感じています。

また、支援施設・事業所では業務負担が増え、文化芸術活動の時間を確保しにくい状況があります。社会の流れとして、官民や文化施設と福祉の連携も進みつつありますが、相互を繋ぐ支援の必要性を感じ、中間支援の役割も大きくなっている現状です。そのことを踏まえ今年度は、①オンラインプラットフォームの活用促進、②交流・ネットワークの強化、③施設・事業所との連携を進め、障がいのある方が自己表現できる環境を整えることを目標に、事業を実施しました。

## 重点的に取り組んだ事業

広島市ピースアートプログラム アート・ルネッサンス2024

### 内容

今年も障がいのある方と支援する方を対象とした、公募作品展を開催しました。

#### 1.作品展の概要

展示期間:2024年9月28日(土)～10月6日(日)

実施場所:合人社ウェンディひと・まちプラザ

総応募 489点、入選作品123点 賞審査を15作品選出

(自由制作部門114点、共同制作部門9点)の作品展示、作品解説

特別展示「ハナサクモリ(太田川学園)」

来場者数:1,107名

### 実績と評価

- ・一昨年から、自由で多様なアート、さまざまな表現のあり方、新しい可能性を広げることを目的に作品を募集。アーティストとそのサポーターや身近にいる人との共同制作部門では作品応募数は少ないものの、日常の中で作品が生まれたやり取りの面白さを感じられる作品や、共同制作ならではのスケールの大きな作品もありました。
- 1. 応募作品数は、若干の減少はあるもののほぼ例年通りの応募が全国各地からありました。
- ・12社の企業様に特別協賛、2社の企業様に協賛をいただきました。また個人協賛で作品展を支えてくださる方が増加しました。
- ・来場者数の伸び悩みに対し、今年度はSNSの発信や広島市の広報紙にも大きく取り上げられたものの、報道関係への広報が遅れ、来場者数減少の結果となりました。
- ・作品展を応援してくださる企業様、個人の方も例年と同数近くありました。新規の学生ボランティアや社会人のボランティアの参加がありました。事務局として従事できるスタッフの不足やアートサポーターとして一緒に作品展を創っていく人員も近年少なく、人員不足で苦労する場面もありました。
- ・事業の目的、方向性の共有が十分にできていなかった反省が残りました。
- ・会場撤収の際、作品が紛失するアクシデントが発生しました。原因について振り返り、再発防止策を検討しました。

	令和6年度広島県文化芸術活動支援事業「広島県アートサポートセンター」
2	<p>内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オンライン発信：YouTube番組「ひゅるりんば」「アーティストに会いにいってみた」の配信やSNSでの情報発信。</li> <li>・人材育成、交流、ネットワークの強化：セミナー&amp;おしゃべり会、画材やさをり織りを体験できるワークショップの実施。</li> <li>・鑑賞サポート：広島県、広島大学、広島県立美術館と連携し、対話型鑑賞会とシンポジウムの実施。</li> <li>・その他：アートに関する様々な相談対応やネットワーク構築に向けて、様々なイベントや会議、講演会への参加や実施協力。</li> </ul> <p>実績と評価</p> <p>すべての事業で学びだけでなく「対話」を重視したことで、参加者の置かれている状況や悩み、ニーズを多面的に把握することができました。また、スタッフの不足により準備が十分でない部分もありましたが、参加者の協力を得ることで環境を整え、関係性の深化にもつながりました。</p> <p>障がいのある方が自己表現できる場面は徐々に増えていますが、安定した支援体制の確立にはまだ課題が残ります。引き続き、さまざまな団体や機関と連携し、支援の継続と強化に努めています。</p>
3	<p>その他</p> <p>幸せプロダクツ アートレンタル事業・アートスペース（陶芸・絵画）の実施</p>

## 2 地域・社会啓発つながりづくり

今年度も地域の中で人が集い、繋がる機会として「地域食堂おいでや」の活動を1年を通して行いました。参加される保護者・家族・ボランティアも増え、関係性も構築されてきました。施設内においても、きつず組の子どもたちが、保護者・スタッフと共に準備などの役割を持ち、さまざまな人と共に作る「地域食堂おいでや」を実施できたと感じています。

地域に広く知ってもらうために、きつず組の子どもたちと一緒に、4月から小学校付近で広報活動を行いました。またSNSを通じて、その都度情報を見てもらえるように工夫することで、少しずつ浸透してきたと感じています。「地域食堂おいでや」を継続して行うことにより、定期的に参加される家族や子どもたちも増えてきたと感じています。

その他にも、夏祭りや夕暮れコンサートの開催、公民館まつり、区民まつり、ボランティアまつり等、地域行事への協力も行い、施設内だけでなく地域の団体や企業、学校含め繋がりを構築し、様々な人が集まる場づくりや繋がりづくりも行いました。

## 重点的に取り組んだ事業

	<p>地域交流プログラム</p> <p>(1) 地域食堂おいでや 実施日:毎月第3土曜日 11時30分～14時 参加者:合計929名 月平均77名の利用（2月末現在） 初めての利用、合計164名で月平均13名の利用</p>
1	<p>(2) 夏祭り 実施日:8月23日（金） 17時30分～20時 参加者:約150人 保護者・家族、地域の料亭魚長さん、エブリイ緑井店さんの出店協力や、衣料品のGAPさんもボランティアとして参加されました。</p> <p>(3) 夕暮れコンサート 実施日:11月22日（金） 16時30分～18時 参加者:約50人 保護者・家族、城南中学校吹奏楽部のみなさん、地域の団体のintoさんが参加されました。</p>
2	<p>地域協力プログラム</p> <p>内容・実績 地域のお祭りに参加し、地域住民や地域で活動されている団体の方とのつながりを深めました。実行委員会にも参加し、意見交換を行いながら、参加される他団体の方や地域の方と共ににぎわいを作り出していくように取り組みました。 特に安佐南区民まつりとさとうふれあいまつりでは、地域の様々な方に法人の存在や活動を知っていただく目的で、お祭りの出店と同時に広報物の配布や貼り出しを行うなど法人のPR活動に取り組みました。</p> <p>(1) 豪雨災害10年のつどい（安佐南区社会福祉協議会） 実施日:8月4日（日） 参加者:地域住民等 約80名 ぽんぽんカフェのコーヒー販売と運営協力を进行了。</p> <p>(2) 安佐南区民まつり（安佐南区民文化センター） 実施日:11月3日（日） 参加者:スタッフ及び地域住民等 約200名 焼き肉まんとぽんぽんアートグッズの販売及び広報活動を行いました。</p> <p>(3) さとうふれあいまつり（佐東公民館） 実施日:11月9日（土） 参加者:地域住民等 約80名 きつず組の子どもたち含め、ジュースやおもちゃの販売、遊びコーナーなどの運営を行いました。また広報活動も行い、認知してもらえる場づくりとしても行いました。</p> <p>(4) 安佐南区ボランティアまつり（安佐南区社会福祉協議会） 実施日:2月23日（日） 参加者:地域住民やボランティア等 約60名 実行委員会への参加や、当日の運営協力を进行了。</p>

### 3 ボランティアセンター

学生や社会人、保護者やOB・OGなどのべ186名の方がボランティア活動に参加してくださいました。学生向けの「夏のボランティアプログラム」では、21名の参加がありましたが、継続した活動参加につながる学生は少ない状況があります。ボランティアを受け入れる体制や日常的な情報発信、参加申込方法を容易にするなど改善すべき点がありました。今後見直しを行い、より学生がボランティア活動に参加しやすい環境づくりをしていくことがこれから課題だと感じています。

重点的に取り組んだ事業	
	高校生・大学生を対象にした「夏のボランティア体験プログラム」の実施とボランティアに参加する学生への丁寧な関わり 通年でのボランティア受け入れ
1	評価 福祉・教育分野に興味のある学生の活動体験の場にすることができました。複数回参加される方は前年よりも増え、学生ボランティアとより密度の濃い関わりができたと感じます。一方で、今年度申し込みのあった学生は、全員初めての方で、前年度から継続しての参加はありませんでした。学校の掲示板やひゅーるぽんのホームページなど学生が直接目にする情報を前年度の夏以降更新できていなかったことが要因だと考えています。
2	近隣の高校及び大学の担当教員との関係作り 評価 近隣の学校との連携については、学校を訪問し担当教員に会って直接法人の活動説明やボランティアプログラムの趣旨説明を行いました。活動内容を知っていただくことで、安心してボランティアできる場所となるように取り組みました。ボランティア参加人数の増加といった結果はまだ出ていませんが、「選ばれる」ボランティア先となれるよう継続して取り組んでいきたいと思います。

その他に取り組んだ事業	
	広島市災害ボランティア活動連絡調整会議プログラム
1	・定例会議への参加（6月12日、3月6日） ・災害ボランティアセンター運営訓練への参加（台風接近のため中止）

	<p>外部への講師・委員派遣・協力事業</p> <p>(1)講師等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・比治山大学 非常勤講師（通年）</li> <li>・広島文化学園大学 講師（7月10日）</li> <li>・安芸南高校 授業（10月17日）</li> <li>・ひろしまNPOセンター こども・子育て防災アドバイザー養成研修 講師（1月26日）</li> </ul> <p>(2)委員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広島県生涯学習審議会 委員（通年）</li> <li>・広島市社会福祉協議会 理事（通年）</li> <li>・広島市社会福祉協議会 ボランティアセンター運営委員会委員長（通年）</li> <li>・広島市社会福祉協議会 基金管理運営委員会 委員長（通年）</li> <li>・広島市社会福祉協議会 地域福祉総合企画委員会 委員（通年）</li> <li>・広島市社会福祉協議会 福祉教育検討会議 委員（通年）</li> <li>・広島市社会福祉協議会 ボランティア活動推進検討会議 委員（通年）</li> <li>・広島市社会福祉審議会 全体会 委員（通年）</li> <li>・広島市社会福祉審議会 子ども・子育て専門部会 委員（通年）</li> <li>・広島市社会福祉審議会 高齢福祉専門部会 委員（通年）</li> <li>・広島市地域福祉活動推進基金助成事業 審査委員（通年）</li> <li>・子どもの安心安全ネットワーク会議 委員（通年）</li> <li>・広島県あいサポートアート展 審査員（通年）</li> </ul> <p>(3)協力事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ひろしまNPOセンター NPO会計意見交換・勉強会（通年）</li> </ul>
2	<p>職場体験・実習生等の受け入れ</p> <p>(1)職場体験</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・城南中学校 2名（7月4日）</li> <li>・安佐中学校 2名（7月9日）</li> <li>・県立広島商業高校 2名（8月26日～8月27日）</li> </ul> <p>(2)実習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広島文化学園大学 保育士実習1名（5月20日～6月1日） 音楽療法実習（5月9日～7月4日 のべ5日間、 10月3日～12月19日 のべ7日間）</li> <li>・広島国際大学 保育士実習1名（8月5日～8月26日）</li> <li>・広島文教大学 社会福祉士実習1名（8月19日～9月21日、2月13日～2月22日） 保育士実習1名（9月9日～9月24日）</li> <li>・県立広島大学 社会福祉士実習1名（10月1日～11月2日）</li> </ul>
3	

## 令和6年度 活動実績

### 1.年間活動時間

年間活動日数 コミュニティスペース事業 241日

その他事業等 30日

### 2.ボランティア年間活動参加のべ人数

186名 (昨年度 199名)

### 3.会員登録数

119名 (昨年度 128名)

■正会員 23名 (昨年度 30名)

■賛助会員 97名 (昨年度 98名)

### 4、寄付者数

■個人 51名

■企業・団体 20団体